

## 第 章 食肉の購入構造

## 1 食肉市場の構造(食肉比較)

## 1. 食肉の購入構造

図表 -1 食肉の購入構造

	和牛	和牛以外の 国産牛	輸入牛肉	豚肉	鶏肉	挽肉		
一世帯当たり平均購入金額 (円/全世帯)	281.5	60.2	88.6	443.6	230.8	92.9		
購入世帯率(%) (購入世帯/全世帯)	16.2	7.9	13.8	63.3	43.6	23.7		
購入世帯当たり購入量 (g/購入世帯)	409.8	356.9	505.1	507.8	553.8	379.5		
平均購入単価 (円/100g)	434.1			220.7	127.9	139.4	96.7	105.0

## 1) 全体

市場規模のレベルを表す一世帯当たり平均購入金額をみると、「牛肉」が430.4円、「豚肉」が443.6円、「鶏肉」が230.8円、「挽肉」が92.9円である。

牛肉は「和牛」が281.5円、「輸入牛肉」が88.6円、「和牛以外の国産牛」が60.2円である。

購入世帯率は「豚肉」の63.3%、購入世帯当たり購入量は「鶏肉」の553.8g、平均購入単価は「和牛」の434.1円/100gが最も高い。

「牛肉」全体の平均購入単価は267.1円/100gと、「豚肉」の139.4円/100gの2倍近くになっているが、「豚肉」は購入世帯率(63.3%)と購入世帯当たり購入量(507.8g)で、「牛肉」の購入世帯率(35.2%)と購入量(464.1g)を上回り、一世帯当たり平均購入金額でみると「牛肉」430.4円、「豚肉」443.6円と若干だが「豚肉」を下回っている。また、「鶏肉」は購入世帯当たり購入量が553.8gと最も多いが、平均購入単価が96.7円/100gと最も安いいため平均購入金額(230.8円)は、「牛肉」(430.4円)、「豚肉」(443.6円)を大きく下回る。

## 1 食肉市場の構造(食肉比較)

### 1. 食肉の購入構造

#### 2) 牛肉

「牛肉」は購入世帯率が35.2%、購入世帯当たり購入量が464.1gで「豚肉」を下回ったが、平均購入単価は267.1円/100gと「豚肉」の1.9倍、一世帯当たり平均購入金額は430.4円と高い。

「和牛」は平均購入単価が434.1円/100gと「輸入牛肉」(127.9円/100g)に比べて300円以上も高いが、購入量が409.8gあり「輸入牛肉」の505.1gと100g程度しか変わらない。このため、購入世帯率(16.2%)は、「豚肉」、「鶏肉」、「挽肉」に次ぐ第4位となっているが、一世帯当たり平均購入金額が281.5円と「豚肉」に次いで高い市場規模であることがわかる。

#### 3) 豚肉

「豚肉」は平均購入単価が139.4円/100gと「牛肉」の2分の1程度であるが、購入世帯率は63.3%、購入世帯当たり購入量が507.8gと高く、量的には「牛肉」の464.1gを上回り、2番目に多く買われている肉であるといえる。一世帯当たり平均購入金額は443.6円と「牛肉」を13.2円上回り、市場規模は「牛肉」を上回る。

#### 4) 鶏肉

「鶏肉」の一世帯当たり平均購入金額は230.8円で、「牛肉」(430.4円)、「豚肉」(443.6円)の半分近くである。購入世帯当たり購入量は553.8gと最も多いが、平均購入単価は96.7円/100gと100円を下回る。購入世帯率は43.6%で「豚肉」(63.3%)に次ぐ2番目で「牛肉」(35.2%)を上回る。

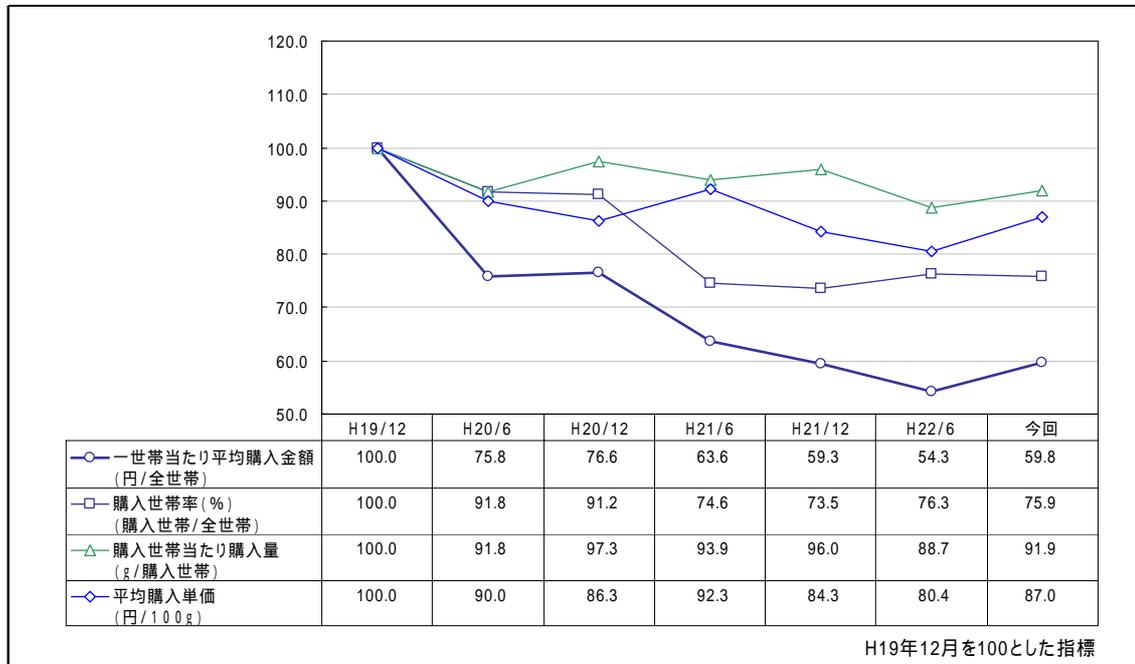
#### 5) 挽肉

「挽肉」の一世帯当たり平均購入金額は92.9円で、「豚肉」(443.6円)、「牛肉」(430.4円)の4分の1、「鶏肉」(230.8円)の2分の1程度である。平均購入単価は105.0円/100gと「鶏肉」(96.7円/100g)を上回ったが、購入世帯率は23.7%、購入世帯当たり購入量は379.5gと少ない。

## 2 食肉市場の構造変化

### 1. 牛肉の購入構造の変化

図表 -2 牛肉の購入構造の変化



「一世帯当たり平均購入金額」とそれを構成している要素（購入世帯率、購入世帯当たり購入量、平均購入単価）について、平成19年12月を100とした指標で時系列的变化を見た。

牛肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成19年12月調査以降低下傾向にあったが、今回は前回は5.5ポイント上回り、前々回の平成21年12月調査時の値も0.5ポイント上回っている。

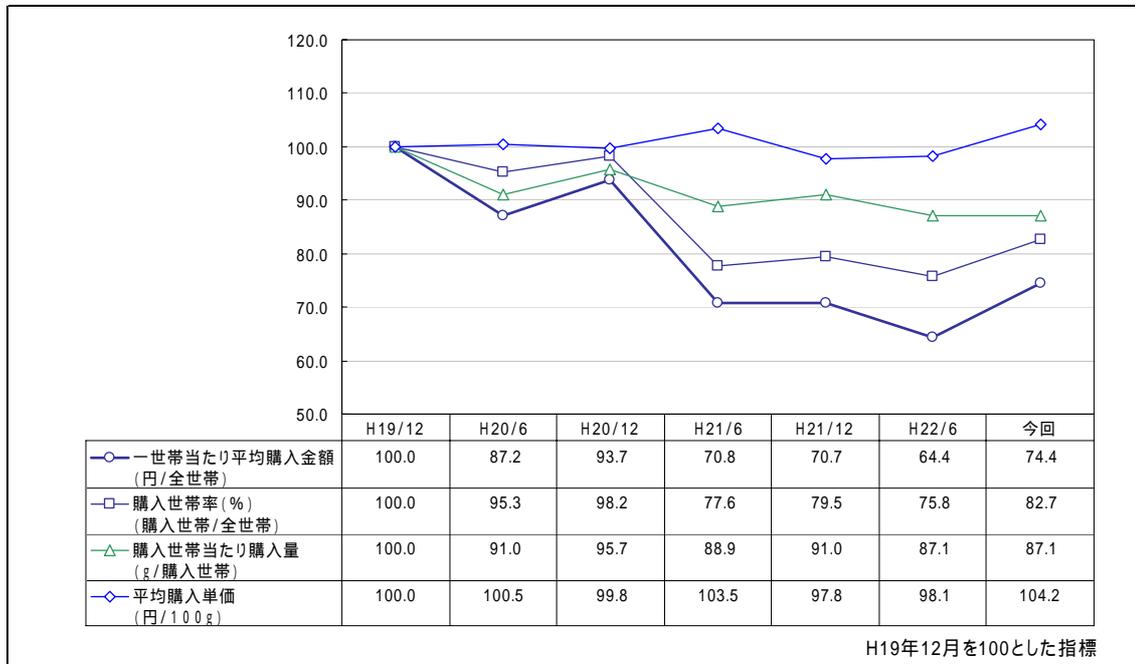
「購入世帯率」は0.4ポイントとわずかに低下し、「購入世帯当たり購入量」は3.2ポイント増加している。「平均購入単価」も6.6ポイント増加し、平成19年12月調査以降で平成21年6月、平成20年6月に次いで3番目となっている。

今回の結果からは、牛肉の購入金額や購入量、購入単価とも減少傾向に歯止めがかかった様子が見える。

## 2 食肉市場の構造変化

### 2. 豚肉の購入構造の変化

図表 -3 豚肉の購入構造の変化



豚肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成21年6月の急落以降低下し続けたが、今回は前回は10ポイント上回り、平成21年6月以降の中で最も高い水準となっている。

「購入世帯率」は前回低下したが、今回は6.9ポイント増加している。

「購入世帯当たり購入量」は、冬に上がり夏に下がるという季節変動がみられていたが、今回(冬)、前回(夏)では変化がみられない。過去の冬の調査の中で最も低い。

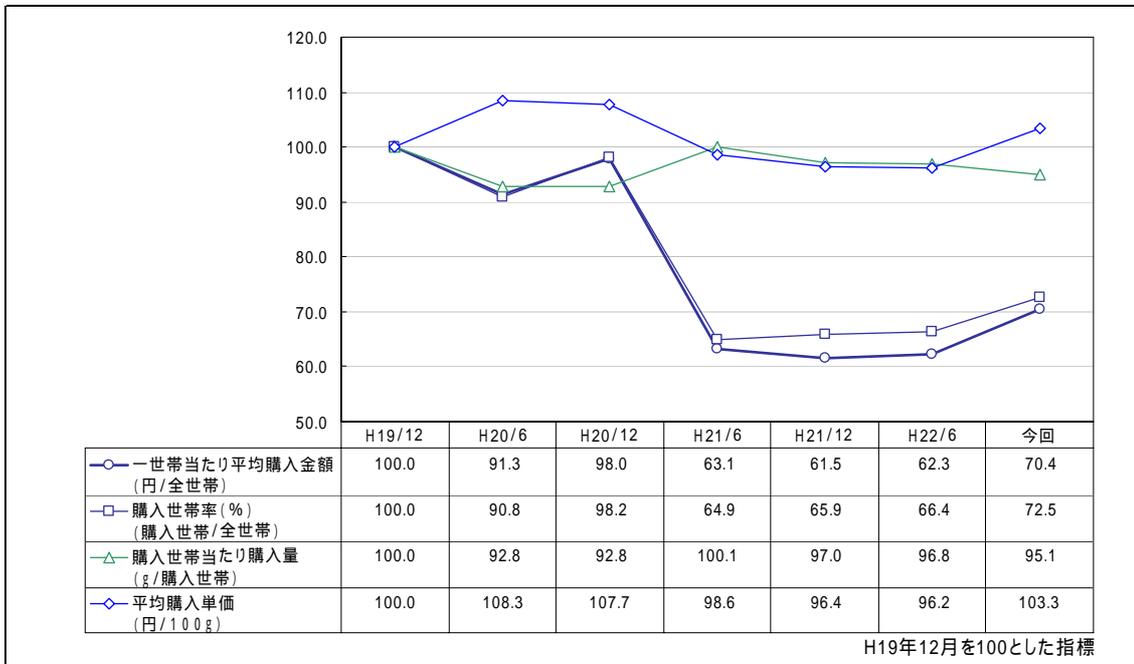
「平均購入単価」は前回より増加し、過去の調査の中で最も高い水準になっている。

今回の結果からは低価格傾向が一段落している様子がうかがえる。

## 2 食肉市場の構造変化

### 3. 鶏肉の購入構造の変化

図表 -4 鶏肉の購入構造の変化



鶏肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は平成21年6月に急落したが、以降緩やかな増加傾向が続き、今回はこれまでよりも増加幅が大きく、前回から8.1ポイント増加している。

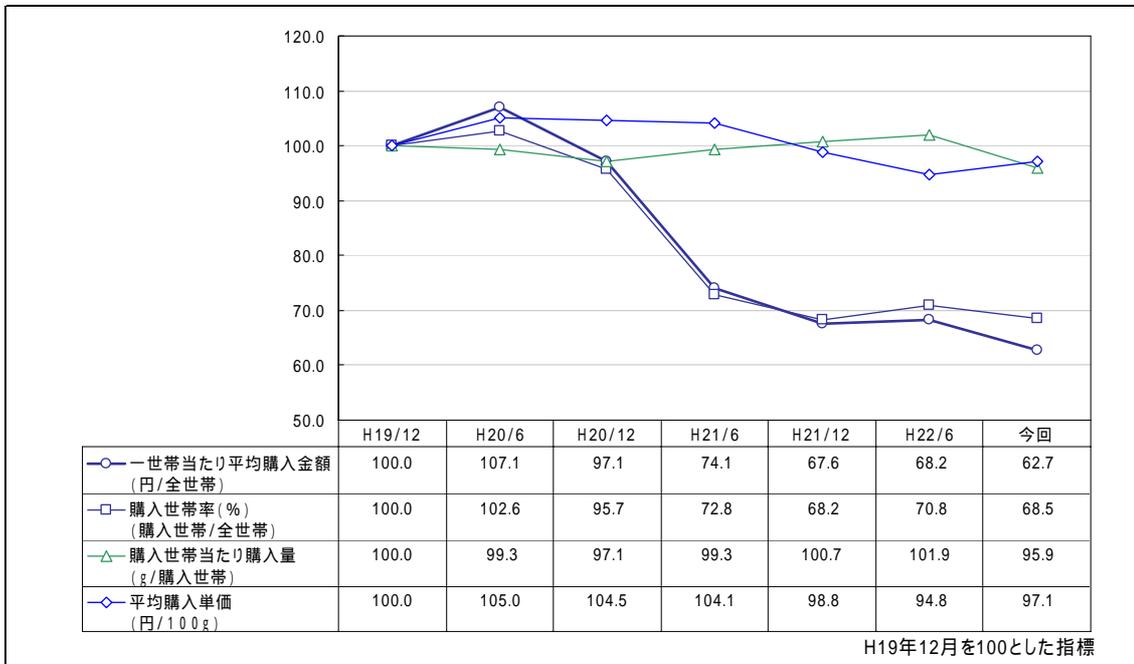
「購入世帯率」も同様の傾向を示し、今回は前回よりも6.1ポイント増加した。「購入世帯当たり購入量」は平成21年6月に最も高いスコアとなったが、以降緩やかに低下し続け、今回も1.7ポイントとわずかだが低下している。「平均購入単価」は前回から7.1ポイント増加している。

今回の結果からは、平成21年6月の急落以降、鶏肉の購入金額や購入世帯率は回復傾向にあるといえるが、急落以前の水準にはまだ達していないことがわかる。

## 2 食肉市場の構造変化

### 4. 挽肉の購入構造の変化

図表 -5 挽肉の購入構造の変化



挽肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、夏に上がり冬に下がるという季節変動がみられたが、平成21年6月の夏の調査で豚肉や鶏肉と同様急落したところから低下傾向にあり、今回はさらに5.5ポイント低下して最低となっている。

「購入世帯率」も前回はやや上がったが、今回は2.3ポイント低下した。「購入世帯当たり購入量」は、比較的安定しており緩やかに上昇していたが、今回は6ポイント低下している。「平均購入単価」は平成21年6月までは横ばいだったが、以降低下傾向になり、今回は前回は2.3ポイント上回ったものの、前々回の水準には至っていない。

挽肉については、平成21年6月以降、購入世帯率の回復が遅れていることが、市場を停滞させている要因であると思われる。